



forme

中学校美術科特集

ベテラン先生の 引き出し

座談会&アンケートで、
若手先生の悩みに答えます!



日文のWebサイト

日文 🔍



「forme」は広く現代社会の要求に応える美術教育の理論と実践の紹介を目的として一九五六年に創刊されました。以来六〇年を超える長きにわたって、美術教育に寄り添って刊行を続けています。「forme」という書名は「形」と人間形成をシンボライズしたものです。子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、これからも、よりよい美術教育を目指す道標となる内容を目指していきます。

Index No.332

- ③ 中学校美術科特集 ベテラン先生の引き出し
 - ・座談会 教えて! ベテラン先生 <前編> 指導の悩み編
 - ・全国のベテラン先生アンケート もっとアドバイスをもらっちゃおう
 - ・座談会 教えて! ベテラン先生 <後編> 授業の悩み編
- ⑫ 学びのフロンティア (小学校)
 - 用具の「人となり」を知る 三原 悠希子
- ⑭ 村上センセイの 教科書利用のススメ
 - |番外編| 令和3年度版中学校美術の教科書、どう使う?
- ⑯ まず見る
 - |第35回| 「詰まらない」をみる 成相 肇
- ⑱ ABC PICK UP
 - 阿部 宏行
- ⑳ 生徒作品解説 私の見方
 - 相馬 亮

表紙について

特集座談会にご登壇いただいた、教師生活2年目の西條柚香先生(宮城県塩竈市立第三中学校)の授業風景を撮影しました。生徒に目線を合わせて寄り添う姿勢が印象的な西條先生ですが、日々指導をする中で悩むこともたくさんあるそうです。



表紙写真
撮影:池ノ谷侑花 (ゆかい)

編集・デザイン: 東京ピンボン
[P.2~11 特集]
編集・ディレクション: 高宮宏之
撮影: 映像工房たまき

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。
例: | 小 | 中 | 高 | 特に中学校に関連の強いコーナーを表します。

中学校美術科特集

ベテラン先生の引き出し

- P.3-5 座談会 教えて! ベテラン先生 <前編> 指導の悩み編
- P.6-9 全国のベテラン先生アンケート もっとアドバイスをもらっちゃおう
- P.10-11 座談会 教えて! ベテラン先生 <後編> 授業の悩み編

全国のほとんどの中学校では、美術の先生は1人だけ。さらに、常勤・非常勤講師、免許外、複数校の掛け持ちなど、立場もいろいろ。先生によっては、研修会への参加や、授業準備もままならない現実があります。そんな中、指導や授業準備の悩みをかかえ、「ベテラン先生に聞いたら……」と願う先生は、きっと多いでしょう。その願い、誌上と動画で叶えます!

座談会

教えて! ベテラン先生

宮城県内でも地域の違う若手先生3名にお集まりいただき、日頃の悩みを共感し合いつつ、ベテラン先生に相談できる機会を設けました。

若手先生



西條 柚香 先生
宮城県塩竈市立第三中学校に勤務して2年目

生徒と一緒に笑ってできる粘土は好きです。平面や人物画は苦手で、生徒も苦手意識をもちがちなので、アドバイスを難しいです。



萬真衣子 先生
宮城県大衡村立大衡中学校に常勤講師として勤務して5年目。その前に非常勤講師を3年間経験。

油絵を専攻していたので平面は得意ですが、版画はあまり学ぶ機会がなく、苦手意識があります。鑑賞も、どう興味をもたせるかが悩ましいです。

ベテラン先生



齋藤 守彦 先生
宮城県美術科教員、宮城県総合教育センター指導主事、宮城県美術館教育普及部部長を経て、今年度より宮城県塩竈市立玉川中学校校長。

私は校長としては、残りあと2年と少しになろうかというところ。初任の中学校がこの玉川中学校だったので、懐かしいです。大学で専攻して学んだデザインや、抽象画も好きです。版画は苦手でした。のちに美術館の職員として版画を教えることになり、ようやく覚えたと感じています。

前編は「授業の土台となる指導の悩み」について、若手先生の悩みを解決していきます。

授業開き、どうすれば？

初めて美術の授業を受ける1年生に向けて、どんな導入を行うのがよいのでしょうか？

西條

西條 1年目で担任もつことになり、大学で学んでいないクラスづくりもあったので、昨年度は本当に必死でした……。そんな中、初めて美術の授業に触れる1年生への授業開きは、まず最初の悩みだったかもしれません。

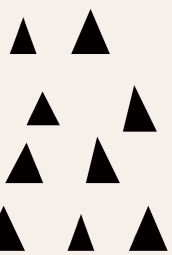
齋藤 私は小学校の教師としてスタートし、4〜6年生を教えていました。そのため、中学1年生がどういうことを学んできたのかを知っていて、その連続性が理解できたことはラッキーでした。私が見つまず1年生に伝えたいのは、「図工」と「美術」の違いです。「図工」は中学で「技術」と「美術」に分かれます。平たくいえば、技術は「寸法などを決めて同じものを作る」、美術は「この世にひとつしかない

子どもが夢中になる時

- ①題材に興味をもてたとき
- ②ものを見て感動したとき
(鑑賞して心が動いたとき)
- ③作品のイメージがもてたとき
- ④つくり方のイメージがもてたとき
- ⑤技術に自信がもてたとき

より大切に楽しくなっていきます。子どもたちが集中し、夢中になるのはこんなときでしょう。

⑤について具体的に補足すると、手軽に自信が付きやすい技術は「平塗り」できれいに塗る「こと」なのです。三角形などの簡単な図形を徹底的にきれいに塗ってみる活動は効果的です。絵の具は溶けたアイスクライに「面相筆でふちの内側に沿って塗ろう」「平筆で内面をムラなく塗ろう」と、段階を追っていいいに指導していくと、どんな生徒でも「できた!」という達成感が味わえます。「面」がムラなくきれいに塗れたことは自信につながります。このように、時間をかけるところでは、しっかりとかけたほうがよいですね。



「ものを生み出す」ための教科なんですね。だから美術では、これから先、一人ひとりがオリジナルなものをつくっていくということも伝えます。

また、表現と鑑賞についても、実感できるように説明します。まず表現については、B5判の紙を渡して「鉛筆で3本の直線を引くだけで、きれいだなと思えるようにしてみよう」という活動を短時間で済ませます。その後、鑑賞もやってみようかと声をかけ、例えばシャガールの「私と村」を見ながら、何が描いてあるか探してみるところから入ります。すると「人が



どこまで教えるべき?

どこまで自由に表現させ、どこまで教えるかの線引きに迷ってしまいます。

西條

齋藤 ルールさえ守れば、どこまでも自由ですよ。教師としても、自分が想定したものを生徒たちが超えていくときの喜びは常にあります。制限をつくるのでそこを止まってしまうからですね。最低限守ってほしいルールはこの4つだと思います。

守るべきルール

- ①体と心を傷つけない。
- ②作品を傷つけない。
- ③共同の空間を傷つけない。
- ④著作権、肖像権を守る。

ひっくり返ってる」「ヤギがいる」とか、いろんなものが見つかります。そして、「この絵が物語だとしたら、どんな物語のどんな場面かな?」と問いを重ねていくと、「美術って自由に考えていいんだ!」ということが体感できます。まずはこれだけで、1時間目はおしまい。そうすると、美術って何だか楽しそうだな、という期待感をもつことができるわけです。

規律を守ってもらうには
ふざけてしまったら、授業への興味を引くところまで、いかな生徒も指導力の問題でしょうか……。

昆野

西條 なるほど、1時間目から鑑賞という方法もあるんですね。思い返すと、初めからあまり否定するのもよくないなと思いましたし、自由な発想を大切にしたいですね。

昆野 分かります。初めに「これをしちゃダメ」と決まりを伝えるばかりだと、生徒もワクワク感が削がれますよね。私も、次の授業へのワクワク感をもっともたせられたらと思います。

萬 私も思い返すと、講師になって1年目のとき、初めの美術授業で「あれもこれも楽しいよね」という話をしながら、子どもの好きなことなどを聞いたのですが、今思えば苦手な子にとっては苦しい導入だったのかな……。今は、一人ひとりの違いを大切にしたいと思っていますが、楽しさの押し付けにならないようにしたいなどあらためて感じました。

子どもが夢中になる条件

どうすれば楽しんで作品に取り組んでくれるのでしょうか?

萬

齋藤 夢中になれる体験をできるだけ増やすことで、美術が子どもたちにとって

著作権が心配!

作品にキャラクターなどを取り入れたいという生徒がいた場合、どうすればよいでしょうか。

西條

西條 すみません、少し話がずれてしまいかもしれないのですが、例えば自画像で、自身を「ちいかわ」風に描きたいという生徒もいます……。こういうことは、どこまで制限すべきなのでしょう?

齋藤 著作権の問題が心配です。まず、キャラクターを描いたものを「授業内で見せ合う」ことはOK。さらに校内で掲示することもOKです。しかし、外から人が来る文化祭などで掲示することはNGです。保護者への展示もNG。不特定多数の目に触れる状況では、公開が難しいということですね。こうしたことも、前もって先生がルールを説明しておけば十分納得できます。

ちなみに、キャラ風にアレンジする程度であれば、その人の作品として考えられるため、外部へも問題なく公開できます。キャラの模写などをそのまま公開するのは難しいということですね。萬 こういうことは、きつと美術だからこそ教えやすい部分ですよ。

10ページからの後編では、より授業の内容に踏み込みます。

もっとアドバイスをもらっちゃおう

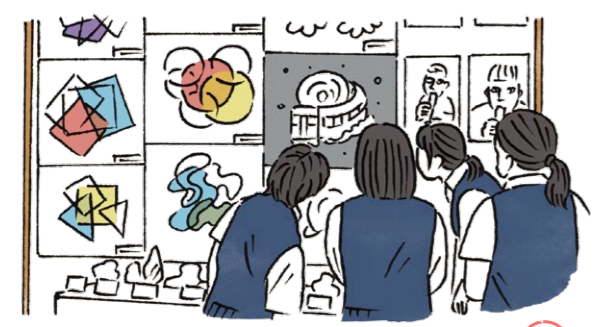
ここでは、指導場面に合わせてアンケート形式でベテラン先生に回答をいただきました。
前号の内容をさらに充実してお届けします！

お悩みにご回答いただいた先生(五十音順)

伊 伊勢幸弘先生 (兵庫県佐用町立上津中学校)	高藤 高藤友輔先生 (埼玉県さいたま市立大宮南中学校)	湯 湯口みゆき先生 (京都府京都市立洛北中学校)
大 大黒洋平先生 (東京都文京区立第九中学校)	高橋 高橋憲司先生 (青森県弘前市立第五中学校)	横 横瀬勝彦先生 (宮崎県宮崎市立大宮中学校)
齋 齋藤守彦先生 (宮城県塩竈市立玉川中学校)	中 中川知子先生 (茨城県つくば市立高崎中学校)	吉 吉田浩気先生 (神奈川県横浜市立篠原中学校)

指導や評価、どうしよう？

表現活動の中で、効果的に鑑賞場面を設定するには？



- 美術室に様々な鑑賞物(ポスター、作品、材料、道具など)を置き、気付かないうちに触れる機会を設けています。見たことをすぐに作品づくりに生かすことは、芸術家でも難しいこと。**中** **たくさんもの**を鑑賞した経験が蓄積され、忘れたころにエッセンスが湧き出てくるのだと思います。
- 前時の活動で参考になると感じた作品などを写真で保存しておき、**授業の冒頭5分間で紹介**します。また、生徒が毎時間のワークシートに記入している「学んだこと・友達の工夫」も紹介し、その生徒の見たものや感じたことを共有して、**見方や感じ方を広げたり**深めたりします。**高藤**

制作中の声がけで気をつけたいことは？



- 常に**生徒に教えてもらう気持ち**で接しています。まず大切なことは、**生徒が何をしようとしているのか、その表現の意図を理解**すること。指導者は間違っても生徒の表現をふるいにかけてはいけません。**伊**
- 生徒から「どうしたらいいですか?」と聞かれたら「**どうしたいの?**」と必ず聞き返しています。アドバイスは複数して、**生徒が選択できるように**しています。色で困っている生徒には、**わざと生徒が否定するような色を言ってゆさぶり、考えるきっかけ**を与えることも。**横**
- 「こうしたら」という指示や、「これは違うね」といった評価などは口にしません。まずは困っているか、考えているかなどを観察し、**そのうえでカウンセリングマインド**で接します。**中**
- 授業のねらいに照らして**声がけ**をしていきますが、全体としては様々な方向から**具体的な理由をつけて「ほめる」こと**。一番大切なのは、**その子だけが行った工夫を見逃さないこと**です。**齋**

授業中、教師はどこまでを教えればよい？



- 生徒は**表したい主題やイメージさえ見付ければ**必ずと試行錯誤します。そのための導入や声がけを常に心がけています。また、**作品の完成に至るまでのトライアンドエラー**こそ学びの価値があると考えています。用具の安全な使い方や基本的な技法は説明しますが、**安易に作例や方法を説明して応用の幅を狭めてしまわないよう、気を付けています**。**吉**
- 発想・構想の時間は**グループ活動メイン**で、仲間どうして教え合ったり、**アドバイスし合うことを大事**にしています。この時間を設定するようになってから、「先生!」と呼ばれて**アドバイスを求められる回数**が格段に減りました。**高橋**
- 教師と生徒が共通のイメージをもつためにも、**表現したいことを的確に表す「言葉の知識」**は教えたいですね。特に「**明度(明るい・暗い)**」「**彩度(鮮やか・鈍い、にごっている)**」など、色の三属性に関する言葉は正確に使えるようにしたいです。生徒がよく使う「**濃い・薄い**」が何を意味しているのか、**本人も分かっていない**ことがありますから。**高藤**



授業の始め、どうしよう？



授業開きで伝えたいことは？



- 1年生では、目の前のペンやふでばこを鑑賞しながら、**美術が何を学ぶ教科なのか**などを伝えます。2年生では**学習をより深め、3年生では社会との関わり**を広げていきます。**高藤**
- 服や文房具などを買うとき、「**形**」や「**色**」を意識して選ぶでしょう。そして、他の人は**同じものを選ばない**かもしれません。美術の授業は、そんな「**形**」や「**色**」に関して**自分なりのこだわりを見つけてセンスを磨く教科**であり、**作品づくりや鑑賞はそのための手段**であることを、一番初めに伝えています。**横**

題材の導入の仕掛けは？

②デザインや工芸の場合

- 実際にある商品や作品を見ます**。スプーンが題材であれば、**一般的なスプーンをじっくり見て触って観察**して、その工夫や使い易さなどを体感させます。百円ショップなどで**数本購入して用意**するなど、ちょっとした投資で**大事な時間を生み出す**ことができますよ。**高橋**



- デザインの題材を扱う際は、「**校区内のパン屋の新商品デザイン**」など、必ず**社会に提案する「企画書」**としてのデザイン画やマケットにします。工芸でも、**銅敷きなど実際に使うもの**を作り、**使った感想や家族の反応**などで書かせます。**湯**

題材の導入の仕掛けは？

①絵や彫刻の場合



- 「**絵のうまさ**」より、**自分の表したい思いが作品に現れる**ことが大切だと、**評価目標を明確に**伝えます。**中**
- スケッチは、「**私のお気に入り**」など「**私の〇〇**」とすると、**自分の生活や思いが背景**になることで**視点が明確**になり、**その子らしさが表現**しやすく。**伊**
- 彫刻は、**素材に興味をもたせられる**かどうか。そのため、**まず一人ひとりの手元に素材を置いておきます**。そして、**素材の特徴(軽い、しわがあるなど)や、その素材でできないこと(削ると戻らないなど)を知り、直に触って**みて**質感を伝え合う**ことから始めます。**伊**

ベテラン先生からの

メッセージやアドバイス



悩んだらまずは諸先生方のまねをしましょう。

まねからアレンジして、結果自分独自のものにしていけばよいと思います。また、積極的に遠くに研修に出たり、ネット上で実践や先生を探してみたり、書籍などもどんどん活用したりして、とにかく**「刺激を受ける機会」**をつくることをおすすめしたいです。

高橋

齋

子どもたちの考えを引き出してまとめたり、一般化したりすることに

自信がもてない先生は、**「道徳の指導法を学ぶ」**と、鑑賞や表現の導入などで役に立ち、指導力の向上につながります。ぜひ、美術を子どもたちと一緒に楽しむとともに、「子どもたちを**「楽しませることを楽しむ」**先生になってください！

一番意識していることは

「授業中は**「教師が暇になること」**。暇だと、生徒の様子をじっくりと見ることが出来ます。また、「教師の暇」は生徒が目標や授業の内容、手順をしっかりと理解して、主体的に活動している証拠にもなります。

だからこそ、**「授業準備が大切！」**生徒の「これがしたい」に対応できる用具や材料を、言われる前に準備しておきましょう。

高藤

自分の得意分野を生かして、生徒の**「得意」を引き出す**授業を心がけるといいと思います。

吉

横

生徒が**「できそう、やってみよう」と**感じるレベルからのスタートでよいと思います。特に表現方法や技法で、先生でも難しいと感じることは、生徒にとっては「無理です」レベルのものですから。また、説明の後、やってみる段階で、生徒がざわついたり生徒どうして話を始めたりしたときは、説明が上手くいっていない場合があります。提示する資料の精選や板書の工夫、ICTの活用等、**「他教科でもしていることを美術でも」**しっかりやるとよいですよ。

伊

自分のことを「先生は理解してくれる」という**「信頼(安心)感を生徒に持たせる」**ことが、3年間の学びの大切な入口。作品を介して**「その子自身のよさ」**を伝えることで、生徒は「自分らしさ」を大切に表現できるようになります。

大

湯

人間が成熟期にさしかかり、**「これからは美術の時代」**です。世の中をよりよくすることを提案する、人間の本質を追求する、生きていることを実感する、ということが美術の役割です。AIがわれわれを凌駕しても、人間らしい不完全な美しさやゆらぎを重視する**「美術は残り続けます」**。

中

美術の授業は、生徒と先生が楽しみながら「一緒につくる」もの。初めから100%を目指さず**「適度な「遊び」をもたせる」**ことで、生徒にとっても先生にとっても学びのある授業ができると思いますよ。

「造形的な視点」は、どうやって意識させる？

「造形的な視点」とは、「美術の窓から見る視点」**齋**



言葉による見方・考え方 理学的な見方・考え方 造形的な見方・考え方

● 私たちは日常生活でも、「造形的な視点」でものごとを見ています。切り分けたケーキを見比べて大きいものを選んだり、雲の形を動物に例えたり。この視点によって、自分なりの幸せや楽しみ、価値などを見付けたり、つくり出せたりするのです。

● 表現活動では、ものや景色をただ見えたままに描くと「上手く」「似せて」という思考になりやすいのですが、**「主題を表す方向にもっていく」と、「どんな感じに描いたら自分の感じたものが表せるか？」**と考えるようになります。すると、**「自ずともの見方や考え方が「造形的な視点」に寄っていきます」**。

高橋

生徒の作品や活動の「よいところ」を的確に拾って評価するには？



横

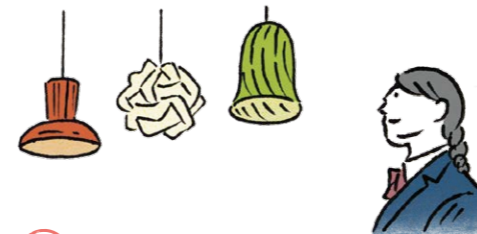
● 評価をするには、生徒が表現したいもの(制作の意図など)を理解しておく必要があると思います。机間指導では、生徒にアドバイスよりも質問することが大切です。

● 授業の前に、**「題材を通して付けたい力を明確にしておきましょう」**。具体的には、題材の目標である「めあて」とともに、「この題材ではこれを評価する」と、評価内容についてもしっかり提示するとよいでしょう。

湯

環境やツール、どうしよう？

美術室や教室の環境づくりの工夫は？



吉

● ライティングレールがあったので、面白いデザインの照明器具を購入し、美術室の雰囲気を変えました。照明の費用は、照明を鑑賞教材として使用することで捻出できました！

● ゲルニカの大きさを床に描いたり、鳥獣人物戯画の復元巻を掲示したりと、鑑賞する作品の大きさを体感させることも。また、発想段階の資料として、図書室でいらなくなった写真の図鑑や、理科で使わなくなった科学雑誌などをたくさん後ろに置いて自由に見ることができるようになっています。

湯

タブレット端末は、授業でどう使うのが効果的？



こんな使い方も！
 ・鑑賞や技法解説用の動画再生
 ・写真の撮影や加工、保存
 ・制作過程の共有
 ・プレゼンや意見交換
 ・アニメーションづくり など

大

● 事前に鑑賞させたい作品を二次元コードで共有したり、技法について動画を配信して見せておくこともあります。また、**「生徒自身の作品表現の様子をアーカイブさせ、プレゼン資料などにまとめさせること」**も。そうすることで、メタ認知的な能力の育成につながり、主体的に取り組む態度も高められます。

● 常に使うのではなく、**「使う題材や時間を明確にしておきましょう」**。そうでないと、制作せずにタブレットを触って1時間が終わる生徒もいるので。

横



後編 授業の悩み編

後編では「授業内容や評価など」に踏み込んで、若手先生の悩みを解決していきます。



時間が足りない、風景画

風景画で、必要な技法を教えているとほとんど時間が足りなくなっています。

昆野

昆野 見た風景をそのまま描きたいという生徒が多く、遠近法やデッサンなどから教えると大変で……。

齋藤 風景画だけで多くのことを扱いきれているのかもしれないね。3年間のカリキュラムで考え、段階を踏みながら風景画を扱ってもよいと思います。なお、カリキュラムは、1年間ずつ3年間を見通して消化できればよいので、生徒の反応を見て、題材を入れ替えたり組み合わせたりしてもよいですね。

苦手意識のある子には、まず四つ切の大きさで描くのもハードルが高いですね。そこで、私が新任だった頃、写生会でA4判の画板と5枚のはがきサイズの紙を渡し、1枚だけ提出することに見えました。小さい紙だと粗が目立たずきれいに見える、生徒も満足感があつたようです。さらに、その絵をスキャンしてポストカードにプリントし、祖父母などに送りました。すると、絵が苦手な子も「ほめられた！」「うれしそうにしていました」。

深まりづらい、自画像

自画像の題材がなかなか深まりません。限られた時間で満足に仕上げさせたいのですが……。

昆野

昆野 デッサン力より思いを優先したいと割り切り、写真のトレースから入ってみました。でも、なかなか思うように深まらなくて……。

齋藤 トレースと聞くと、やはり写実的、具象的なイメージでしょうか。私は、表現方法の選択肢として抽象表現があってもよいのかなと思いました。3年生になれば、これまでの様々な技術が積み上がっています。また、表向きの自分と内面の自分がいて、そんな心の中を表現しやすいのは抽象だと思います。表しやすい表現方法を選択させてよいでしょう。

トレースの技法も、それまでに少しでも体験させておけば、選ぶ子が出てくるかもしれませんね。

西條 自画像は私も悩みます。自由すぎると進まないし、特に抽象的な表現は評価しづらいな……。

齋藤 抽象表現は、作品だけ見ると評価が難しいですね。ただ、授業では、これまでのその子のことが分かった上での表

いつ、どうやって鑑賞するか

観賞のタイミングや方法、よく使う作品などが知りたいです。

西條

齋藤 鑑賞のタイミングは自由ですが、目的に合わせて行いましょう。鑑賞は大きく3種類あります。

鑑賞の種類

- ① 鑑賞だけ
- ② 制作につながる鑑賞
- ③ 想像を広げる鑑賞

① おすすめの作品

- 「神奈川沖浪裏」葛飾北斎
- 「タンギーじいさん」ゴッホ
- 「肘掛け椅子に座るオルガの肖像」
- 「泣く女」ゲルニカ「ピカソ
- 「私と村」シャガール
- 他にクレー、伊藤若冲など

①では、作品そのものを鑑賞するため実施します。②では、題材の導入などの際、教科書やタブレットで題材につながる様々な作品を観ます。生徒どうして作品を鑑賞し合うなども、これにあたるでしょうか。

③は、例えばこんな活動です。「この絵を窓として、今からこの絵に入ります。中を歩くとどんな風景が見える？」と聞きま

す。すると「海！」など、生徒からイメージが挙がるでしょう。これは、頭の中で新しいイメージを形づくっているわけです。また、美術館では、展示室に入る前にタイトルだけ伝えて絵を探させました。結果、自

ずと「自分の想像していたイメージ」とギャップが生まれますね。こうしたイメージの広がり、様々な表現に生きてきます。**西條** こんなに自由な鑑賞は、新鮮です。「鑑賞をやるよ」と言うと、生徒も嫌がるんですよ……。**齋藤** 鑑賞を嫌がるのは、それまでにあまり鑑賞の機会がなかったからだと思うんです。「何が描いてある？」「何が起きている？」「どうしてそう思ったの？」と、鑑賞を通じて対話を深めていくと、意見の違いが表れてきます。この違いを共有することもまた、鑑賞の面白さです。鑑賞に正解はありませんからね。

鑑賞の評価の観点は？

鑑賞を3観点のどこに位置付けて評価すればいいか、悩みます。

萬

萬 観点が4観点から3観点に変わったので、鑑賞の位置付けがどうしてもしっくりこなくて……。

齋藤 制度上、講師の先生方は研修会などに参加しづらく悩ましいですよ。学習指導要領では、3要素のうち「思考力、判断力、表現力等」で、発想・構想とともに鑑賞が扱われています。作品を鑑賞して考えたことや、どのように発想・構想しようかと頭の中でイメージすることなど、頭の中で起こっている一連の流れが、「思考・判断・表現」の観点でよく知られた、ということなんです。

萬 なるほど！ 評価は一人で悩んでいると本当に苦しくて……。こういうお話は助かります。

共通事項の指導と評価

「共通事項」はいつ、どのように教えれば定着するでしょうか。

昆野

齋藤 共通事項というのは、表現でも鑑

賞でも共通して指導すべき事項、という意味ですね。内容はその学年の発達段階に応じてちよつとずつ違つてはいますが、大まかに言うと、「形・色彩・イメージ」を感じ、とらえる能力と言えます。

私たち教師が教え、評価しなくてはならない内容項目に、「知識及び技能があります。」「技能」は、これまでの「創造的な技能」と一緒です。そして、「知識」が共通事項にあたります。つまり、共通事項が身に付いたかどうかで、「知識」の評価が問われてくるということですね。

知識は全ての題材の中で評価されるので、全ての題材のねらいにおいて、「形はどうか、色彩はどうか、イメージはどう表現されているか」を見ていくことになります。この視点こそが「造形的な視点」です。「造形的な視点」は、共通事項を生徒に捉えさせるカギとなるわけです。

分かりやすいねらいが大切！

「造形的な視点」は、どう意識させればよいでしょうか。

昆野

齋藤 子どもがイメージしやすい言葉でねらいを設定することがポイントです。「リラックスできるいすをデザインしよ

座談会の動画はこちら！

悩みを解決する方法がもっと具体的にわかります。



中学校美術の先生応援サイト
中美チュービ
はこちら！



応援しています！



「刺すところが端っこすぎて破れちゃったから、刺すところを変えたよ」と教えてくれた子どもがいました。それめっちゃいい情報！とみんなで盛り上がりつつ、他の子どもから「細かい紙にはうまく刺せなかったから、太くしたよ」という追加情報も出てきて、子どもたちの気付きから「割りピンさんはこういうことは苦手なんだね、こうしてあげたらいいね」とみんなで用具の特性を共有することができました。用具も人間と同じで、得意・不得意があります。図工の授業で子どもが思い通りにできず困っているときは、やりたいうことに合っていない用具や方法で無理やりなんとかしようとしている場合が多い気がします。そんなときは、「〇〇さんが困っているみたいなんだけど、どうしたらいいと思う？」と周りの子どもたちにも尋ねるようにしています。教師はあくまでファシリテーターに徹して、子どもたち同士が発見や知恵を共有して解決できるように支援しています。

手立て 3

割りピンは五個まで

「動かせる」ことです。中学年なりに



用具の「人となり」を知る

うごいて楽しい わりピンワールド 中学年・工作

三原 悠希子先生 (神戸市立魚崎小学校)

授業計画

めあて

動かせる仕組みから
思い付いたことを、
色の組合せや紙の使い方を
工夫してつくる。

初めて出会う割りピンに興味津々な三年生の子どもたち。さっそく使い方を説明……は、しないのが三原先生流。子どもたちと「一緒に考える」ことから、授業はスタートします。

手立て 1

割りピンを鑑賞し、友だちになる

初めて使う材料や用具との出会いは、みんなで一緒に鑑賞するところから始めています。今回も、割りピンを手にとって、形や色、触り心地などをよく見ることからスタートしました。すると子どもたちは、「こういう形だから、こうやって使うんじゃないか」と自分で考え始めるんです。「はじめまして」の割りピンさんだから、関心をもって見ながら特徴を見付けて、「友だちになる」みたいな感じなんです。のこぎりや彫刻刀でも同じで、「刃のギザ

手立て 2

割りピンの得意・不得意を知る

鑑賞のあとは、色画用紙の端材と割りピンを使って試しながら、どんなことができそうか考える時間を設けました。「紙をとめられるのに動かせる。便利、楽しい！」という発見がある一方で、

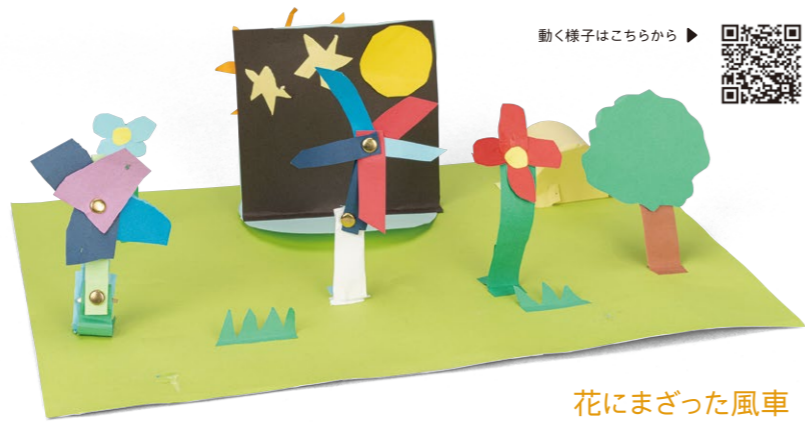
ギザの大きさが違う。なんでかな？」というように、造形的な視点で鑑賞することから自然と用途を考えられるようにつなげています。私にとっても、子どもたちの目を通して材料や用具に出会い直すことができる楽しい時間です。

- 時数：6時間
- 材料・用具
割りピン、押しピン（穴を開ける）、鉛筆（穴を広げる）、色画用紙、はさみ、のり、モニター など
- 活動の流れ
 - ・割りピンを鑑賞し、気付いたことを話す。
 - ・色画用紙の端材を使い、割りピンでどんなことができるか試す。
 - ・試しながら思い付いたことなどを基に、工夫してつくる。
 - ・友だちと作品を見合い、よさや面白さを伝え合う。

題材の目標・評価規準はこちらをご参照ください ▶



割りピンの使いどころを考えてほしいなと思いつき、五個まで制限を設けました。無制限に使用してしまうと、ただパーツをつなげていく活動になってしまうことも想定されます。のりで貼って固定するところ、動かすところの使い分けもポイントです。作品の中で割りピンが使われているところは、「ここは絶対に割りピンじゃないと！」と一人ひとりが選んだ場所なんです。友だちの作品を見るときも、「〇〇さんは割りピンさんのよさをこういうふうに使ったんだ」という見方になっていきます。出会いの「割りピン鑑賞」から始まって、みんなで気付きを共有しながら、最後には四〇人四〇通りの発想が生まれる。これが、図工の本当に面白いところです。



花にまざった風車

背景がぐるぐると回り、昼と夜の世界が交互に現れます。

Message

図工は「自分らしく」 いられる時間

六年生に、「自分にとって図工とは」という問いで振り返りを書いてもらったんです。すると、「制限なく自分の考えを表せる」「個性的に成長できる」「新しい自分を見付けられる」など、「自分らしく」いられる時間だと感じてくれていることが分かりました。また、「友だちのことを深く知れた」「人の気持ちが前より

分かるようになった」など、友だちの存在に目を向けている子どももたくさんいて。本人も気付いていなかった「その人らしさ」を友だちが見付けてくれる場面が、図工ではたくさんありますよね。自分とは違う視点や考えをもった他者と一緒に図工を学ぶ価値が、ここにあるんだと思います。

「学びの目標」、「造形的な視点」で1年間の指導内容のバランスを考えやすい

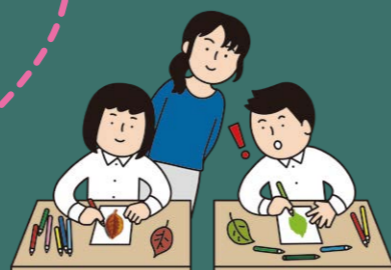
【学びの目標】

- 形や色彩、全体の様子などに着目し、そこから生じるイメージをとらえ、絵の具の使い方を工夫して表す。
- 身近な場所のイメージなどをもとに、形や色彩、構図などの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。
- 気になる場所を見つけ、その特徴をとらえて表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む。

造形的な視点

作者の表したいことと、構図や色の使い方に着目してみよう。

全ての題材に、学習指導要領に沿った育成すべき資質・能力の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に対応した目標を掲載しています。また、教科目標にもある「造形的な見方・考え方」を捉えるヒントとして、題材の中心発問となる造形的な視点を設けています。生徒の学びの明確化とともに評価のしやすさにもつなげているため、これを基に年間を通してバランスよく題材配列を検討することができます。



豊富な図版数で鑑賞授業の計画も立てやすい



表現鑑賞題材は、「造形的な見方・考え方」を押さえることで、任意の作品を選んで短時間の鑑賞題材として活用することもできます。3冊を通して鑑賞図版が豊富なため独立した鑑賞題材を考えやすく、生徒にたくさんの造形的な見方・考え方のアンテナを捉えさせることができます。

POINT
生徒が出会える作品数・情報が豊富です。

指導書も活用しよう！ 令和3年度版指導書ラインナップ

- ・ **朱書編**…教科書の縮刷を基に、掲載作品の紹介、各題材の学習の流れ、評価基準の例を掲載しています。
- ・ **研究・指導編**…教科書で紹介している主な題材の詳しい授業展開事例を指導案とともに掲載しています。
- ・ **ワークシート**…1題材ごとに【導入】【展開】【まとめ】の3枚で構成しています。PDFデータと、文字やレイアウトを書き換えられるWordデータをご用意しています。
- ・ **動画コンテンツ**…作家紹介をはじめとする鑑賞活動に役立つ動画や技法の解説動画を収録しています。

令和3年度版中学校美術の教科書、どう使う？

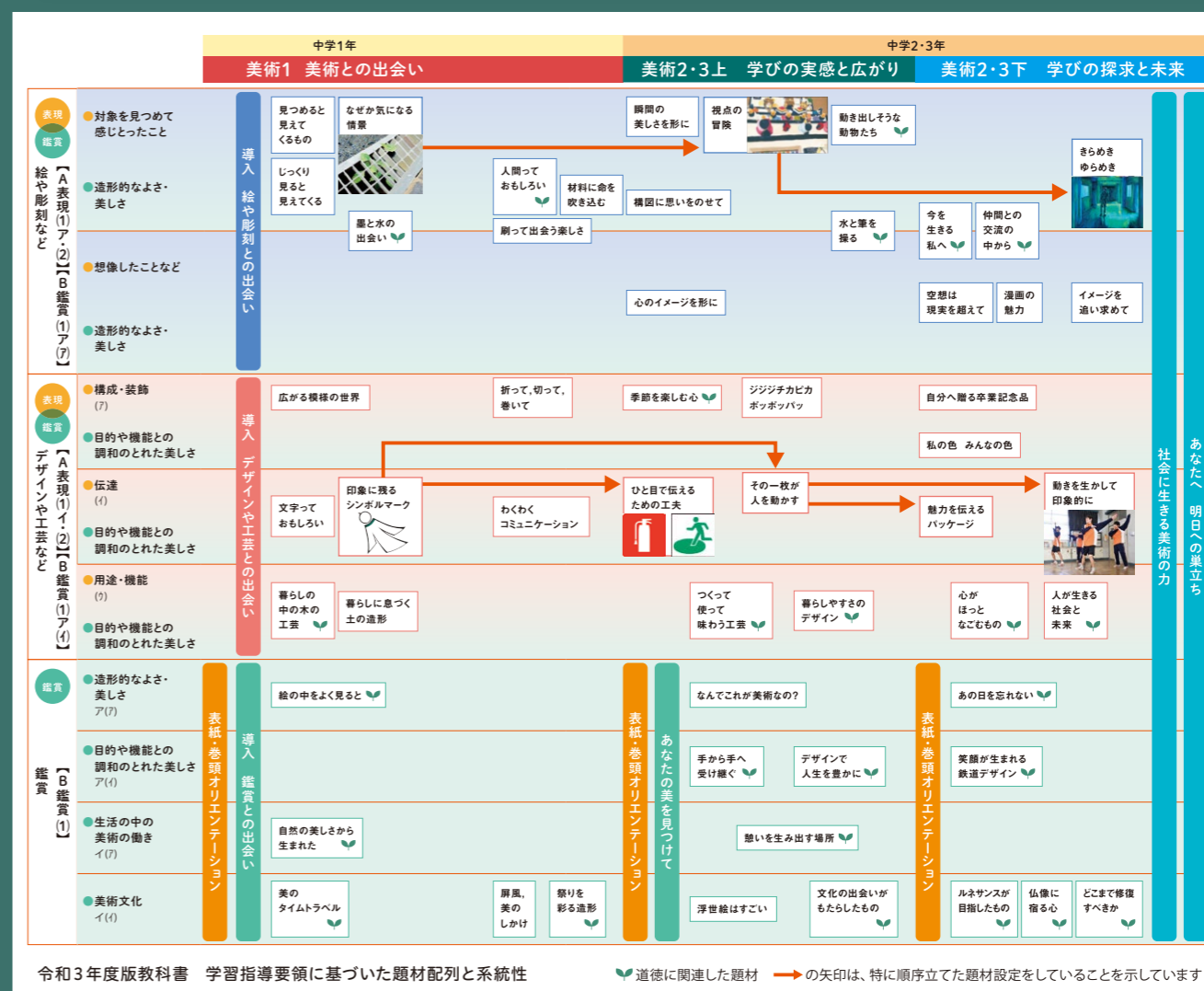
村上センセイの教科書利用のススメ

番外編



教科書の著者である村上尚徳先生と全国の先生が、令和3年度から使用されている教科書の題材をもとに、どんな授業展開ができるかをご紹介します。今号は新年度も間近、1年間の見通しを持って指導できる教科書利用のヒントをご紹介します。

生徒の発達に合わせた年間指導計画を立てられる



教科書は美術1が1年生、美術2・3上が2年生、美術2・3下が3年生と、それぞれの分冊を各学年の学びに対応させています。

例えば2年生の授業は、2・3上の題材を中心に考えることで、発達の段階を考慮した年間指導計画を立てられます。題材の豊富さと適宜設定している短時間題材から、生徒や学校の実態に合わせた指導計画を立てることができます。

POINT
3冊の表紙作品を生かして、各学年の授業開きができます。

誰もが知っている作品や、初めて出会うもの。いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみよう。それまで見えなかった作品の一面が、見えてくるかもしれません。



静物

[油彩・キャンヴァス／30.5×40.8cm] 1954年



静物

[油彩・キャンヴァス／35.8×40.8cm] 1954年
ジョルジュ・モランディ [イタリア・1890～1964]

「詰まらない」をみる

関心が持てないという意味を指す「詰まらない」という言葉が文字通り示すように、人はふだん、はっきりと輪郭を持つ、確固とした物体、すなわち詰まるものを視界の主な拠り所にして日々を生きています。「詰まって」見えるものに輪郭を認識し、そこに意味を感じるように、生物として慣らされている、と言うべきでしょうか。なにしろ効率的に生きねばなりません。もしあらゆる情報を拾ってしまったら、目を開けていることさえ耐えられない!

例えば一般にマンガが絵画より目を引き、見やすく感じられるのは、無視してよいものが略され、詰まっているものだけが抜き出されているからです。しかしマンガのようにではなく絵を描こうとすれば分かる通り、世界に輪郭は無いし、微細な影や光、凹凸、色の移り変わりに満ちています。特に「背景」と呼ばれるエリアを描くとき、そこがいかにか絵にとって重要であったかを知ることになるでしょう。意識の外に退いていたものが、急に意味を持って迫ってくるはずで

このことを最もよく教えてくれるのが、モランディの作品です。ご覧のようにまるで間違い探しのように飽きず同じモチーフを繰り返し描き続けたことで知られるこの画家は、よく「配置の妙」とか「シンプルさ」で語られてしましますが、それだけではあまりにもつたない。

モランディの絵は、なぜこうも妙な印象を抱かせ、人を引きつけるのでしょうか。しばらく眺めていると、背景やテーブルにポリウムを感じてきませんか。まるで瓶や箱が埋め込まれているかのように。筆の跡、淡い色彩、ものともとの境界に、注目ください。画角や距離や画面のフォーマットをごくわずかに変えながら、モランディがどうにかして瓶や箱を背景に溶け込ませ、「詰まり」と「非・詰まり」が等価になる点を探ろうとしているのが分かるでしょうか。ここに妙な印象の理由があります。彼は瓶や箱、あるいはコップや鍋など、ここどこも空の器や容器を好んで描きました。詰まった形を持ちながら詰まっていな

い。それらはびったりと並び、個別の存在感を薄められています。しかもモランディはそれらにあらかじめ絵の具を塗って、物体の質感を抑えてさえてきました。そして画面上では、逆に詰まっていない領域が主張しています。境目揺らいで奥の方が手前にせり出し、瓶や箱は、現実には接しているはずのない壁やテーブルの奥の面と密着しているようです。

いわばモランディは、状態としての透明——詰まりと非・詰まりが同時に成立している状態——を描こうとしたのです。人が慣らされてしまっている知覚にチャレンジし、それを揺るがすところにこそモランディの魅力があります。容易に揺るがないからこそ、たくさん作例が必要でした。

そもそも「モチーフ」という言葉に注意しなければなりません。ある個物をモチーフと呼んだとたん、視点が決まってしまう。詰まっているところだけを、マンガのように(マンガを「読む」)生活している通りに効率よく絵を見ては、おもしろくないに決まっています。絵を鑑賞するとき、よく見て、とか、時間をかけよ、というのは、つまりそういうことです。妙な印象を無

視せず、詰まっていなと思う(思ってしまう)部分に気を付けて見ればきつと、絵はツマラン、とはならないでしょう。

成相 肇 なりあい・はじめ

東京国立近代美術館主任研究員。
一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員・東京ステーションギャラリー学芸員を経て、二〇二一年から現職。
主な企画展に「石子順造の世界」「ティスカバー、ティスカバー・ジャパン」「パロライ、二重の扉」など。

〈今更のひと言〉

恥ずかしながら告白しますが、岸田(剛生)一八九一―一九二九は藤田(嗣治)一八八六―一九六八)よりも後に生まれているという事実をつい最近認識しました。片や大正時代に活躍して天折し、片やバリ画壇の寵児となつて戦後まで長らく活動していたので、いま改めて見ても生年の近さと前後関係が妙な気がしてしまいます。まさか藤田の方が劉生より五つも先輩だったなんて。固定観念というやつですね。

「芸術のわるい」

「ジー、パロレイ、キッチュ、悪」
著者・成相 肇
出版・かたはみ書房
定価・三二〇〇円十税
A5サイズ／四〇〇頁



東京国立近代美術館展覧会情報
「中平卓馬 火―氾濫」
(二〇二四年二月六日～四月七日)



中美(チュービ)サイトの中から
2つのコーナーをご紹介します!

絶賛
更新中

指導の悩みABC

指導や授業で、つまづきがちな悩みや疑問を取り上げ、ベテラン教師から読者と同じ目線で問題解決へのアドバイスを提案します。

vol.07 【マンガ】導入では何を注意するの?



「その題材が充実した学習となるかは、導入で決まる」とも言われるように、生徒たちの題材との出会いや、そこから生まれる新たなイメージが授業を突き動かしていきます。そんな大切な導入を魅力的なものにするには、どんなことが大切なのでしょう。



vol.19 【マンガ】新1年生の最初の授業はどうすればいいの?



新1年生の中には、美術に興味をもっている生徒もいれば、苦手意識のある生徒もいます。そんな生徒たちに美術の学習が目標にすることを伝えながら、2回目以降の授業を楽しみにしてもらうには、どんなオリエンテーションをすればいいでしょうか。



私の指導計画

2023年5月よりスタートしたコーナー!
美術の先生が実際に立てた年間指導計画を紹介、解説します。

vol.01 元 横浜市立芹が谷中学校 校長 長澤 博昭 先生 年間指導計画を立てる際のポイント

私の指導計画



Vol.01 年間指導計画を立てる際のポイント
元 横浜市立芹が谷中学校 校長 長澤 博昭 先生

年間指導計画を立てる際にポイントとなる「生徒理解をする」、「表現と鑑賞のバランスを考える」、「学校目標、教科目標、題材目標を確認する」、「各題材のつながりを意識し、3年間の流れを考える」の4つについて詳しく解説します!



vol.02 横浜市立篠原中学校 吉田 浩気 先生 詳しく解説!私の指導計画(1年生編)

私の指導計画



Vol.02 詳しく解説!私の指導計画(1年生編)
横浜市立篠原中学校 吉田 浩気 先生

少ない時数の中で、学習指導要領で示されている事項を全て満たしながら、学校や生徒の実態に合わせた年間指導計画を立てるのは難しいことだと思います。そんな指導計画を現場の先生方はどのように考えられているのかを詳しく解説します!



ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を選んでご紹介しします。

今回は「指導のABC」p.45をピックアップ!

あなたにかわる人はいない

先生という仕事は、やりがいのある仕事です。子どもの成長を願い、授業づくりに励み、日々の指導に邁進し、自分自身を紡いでいきます。

ときには、思わぬ問題に悩み、解決の糸口を見いだせぬまま、苦しい時間を過ごさなければならないこともあります。自力で解決しようとする使命感から、自身の限界を超えてしまうこともあります。しかし、教育に関する以外、素人だと自覚するところからはじめると、助けを求めやすくなります。教育の問題に関して、意外と「わかっているつもり」になっていることがありますから、先輩や関係機関などに「相談する」ことを躊躇してはいけません。周りの人の力を借りながら、乗り切ることも必要です。

誰かがあなたの仕事をかわることはできませんが、「あなた」にかわる人は、この世に一人としていません。家族も含めてあなたの身の回りの人たちは、あなたが心身ともに健康で、人生を豊かに生きることを望んでいます。

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。

ABCシリーズのラインナップ



ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。また、冊子をお送りすることもできます。



著者紹介
あべひろゆき
阿部宏行

1954年生まれ。元北海道教育大学教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員(平成29年)、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査(小学校図画工作)」(平成29年)などを歴任。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。



小学校図画工作科教科書



中学校美術科教科書



高等学校芸術科美術教科書



驚きあふれる文具ロード [紙・木・加工粘土・プラスチック・毛糸・ステロール棒・発泡スチロール/16×20×20cm]
令和3年度版 中学校美術科教科書 美術2・3下 p.45掲載

初めてこの作品と出会った時、私は吸い込まれるようにこの作品の中に入り込んでいました。巨大な手に握りしめられた鉛筆、自分と同じぐらいの大きさのクレヨン。作品のタイトル通り、驚きを隠さずにはいられませんでした。

作品の中でも、一際目を引く、分度器型のガードレールの間に配置された大きな手。鉛筆をしっかりと握りしめています。これは、歩道を歩く人達が事故に合わないよう、手のひらで守ってくれているような、そんな作者の優しさを感じました。

作品は、自己のイメージを表現するために、木材、粘土、プラスチック、発泡スチロール等、様々な材料を使用して制作されています。材質の異なる材料では、加工するためにたくさんの道具が必要になったり、材料ごとに異なる接着剤が必要になったりします。さすが中学三年生、これまで図画工作や美術の授業で培ってきた知識や技能を最大限に発揮している様子が「匠」を感じました。

誰も新しい文具には、心躍るものです。この文具ロードを歩くことは、そのワクワク感や高揚感をさらに高めてくれるのではないのでしょうか。
あなたはどう思いますか？

小 | 中 | 高 |

形 forme No.332-2024

日文教育資料 [図画工作・美術]
令和6年(2024年)2月16日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33706

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690